

KINKO Journal

近校ジャーナル

発行所

近畿大学附属広島高等学校・中学校 福山校

第67号

令和5年(2023年)
3月24日号

これまでの思いを込めて一人ひとり大切に呼名。



卒業証書を代表で授与される畠さくらさん。
6年間、勉強も部活も頑張りました！

校長先生からの式辞では、卒業生への熱いエールが語られました。マスクをつけてそのままの学校生活に対する申し訳なさ、しかし出口のないトンネルはないように、やまない雨はないように、もう少し待ってみようと励ましのお言葉がありました。

五木寛之さんの著書「選ぶ力」を紹介され、人生は選択の連続、これからは自分の責任で自分の力で歩んでいってもらいたい。校訓の言葉にあるような人間を目指し、いつまでも友人や母校を大切にしていってもらいたいと語られました。



2月10日(金)、第51回となる高等学校の「卒業証書授与式」。卒業生、来賓、保護者、教職員が本校体育館に一堂に会し、厳肅かつ温かな雰囲気の中、盛大に挙行されました。緊張した面持ちで入場した二〇五人への卒業証書授与。担任の先生が一人ひとり心を込めて名前を呼び上げていきます。

校長先生からの式辞、来賓の方々からの祝辞、祝電祝詞披露を経て、記念品の贈呈を行いました。その後、在校生を代表して生徒会長からの送辞、そして最後は卒業生代表の西宮さんからの答辞です。締めとなる学園歌、校歌の傾聴を終え、退場する生徒たちには自然と涙が。そしてそんな彼らに、一抹の寂しさと、今までの労い、そして今後のエールを込めて会場からの温かい拍手が惜しみなく贈られていました。

勉強頑張りました！



西宮沙世さんの答辞では、今までのさまざまな思い出が語られました。高校生活の始まりは、新型コロナウィルスにより入学式が挙行されず、初めて持つタブレットでのリモート授業という異例の事態で始まり、行事の中止や縮小が続く中、研修旅行も延期されるなど思うようにならないものでした。しかし、そのような状況だからこそ、行事を全力で楽しむことができ、一緒に学校生活を過ごす友人の大きさに気づけたと語っていました。また、自分たちを奮い立たせてくれた先生方、今まで大切に育ててくれたご両親に感謝の気持ちを述べました。最後に近大福山で学んだことを糧に、この先歩みをとめず進み続けることを約束して答辞を締めってくれました。



どうにかみなさんとつながることができたのは、この学年から導入されたiPadのおかげかもしれません。また、この端末導入により、学びの様子も一変し、授業でどのように使うのか、生徒・教員とともに試行錯誤しながらの授業展開でした。私たちの心配をよそに、皆さんの対応力は抜群でした。皆さんの個性や創造力は、私たちの想像をはるかに越し大きく広がっていくのを感じました。

た、笑顔にあふれた2泊3日での関西への研修旅行。また、HR行事の代わりに行つた球技大会では、受験勉強でのストレスを発散させるかのように、全員が生き生きとプレーしていました。このことで、皆さんのが私の笑顔が私たち教員の力の源であることを実感しました。さまざまな困難を乗り越えて、皆さんは近大福山を巣立ち、それぞれの世界へ飛び立つてきます。コロナ禍での高校生活で不便なことが多かつたと思いますが、この状況で高校生活を送ったからこそ、どんな苦境にも立ち向かっていける力を養えたと思います。そしてこの状況と一緒に過ごしてきた仲間は、かけがえのない友であり、一生の友となるでしょう。これから先も助け合いながら、人生を切り開いていくください。

ご卒業おめでとうございます。高校3年間は短かったです？それとも長かったです？でも間違いなく、初めて経験する時間の流れ方だったと思います。



高3学年主任
鉄谷 友味子

中2
研修旅行記

12月初旬、本校の中学二年生が三泊四日の研修旅行を楽しみました。横浜・東京と関東方面で多くのことを学び、成長して帰つてきました！



中3
研修旅行記

12月初旬、同じく中学三年生も東京へ研修旅行に行きました。一年間待ち続けた待望の研修旅行！仲間との協力、共感、そして実際に見て体験することの大切さを学びました。



高2
研修旅行記

高2年生は冬の北海道へ！
今年は3つのコースに分かれ、
そして北海道の豊かな自然と



近大福山の春夏秋冬 School Time 2022



